

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 4月15日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2009 ～ 2012

課題番号：21240060

研究課題名（和文）知の競争時代における大学体育モデルの再構築に関する実践的研究

研究課題名（英文）An action research for remodeling of the physical education curriculum in higher education

研究代表者

宮下 憲 (MIYASHIA Ken)

筑波大学・名誉教授

研究者番号：30110480

研究成果の概要（和文）：

これまで実施されてきた大学体育に関する卒業生および担当教員へのアンケート調査や文献研究から、大別すると次の3つの意義が見出されるとした。1) 健康・安全・体力の保持増進と向上、2) スポーツの普及と振興、3) 人間・人間関係の形成。また海外における体育授業の実態およびスポーツ教育に関する調査から新たな大学体育の理念に盛り込むべき内容に関する提言を行った。

また国内外の大学体育のカリキュラムに関する現状に関する調査を実施し、新たなカリキュラムに盛り込むべき、理念と教育目標に関して、多角的な視点からの議論が行われ、新たなカリキュラム案を作成し、2011年度より施行した。その効果を検証した結果、新カリキュラムと旧カリキュラムの「授業評価」を比較した結果、新カリキュラムの方が新たに設定した5つの教育目標のすべてにおいて評価が高いことが明らかとなった。しかし一方で、「授業の運営・指導法」、「満足感」においては旧カリキュラムの方が高く評価された。

研究成果の概要（英文）：

As results of questionnaire investigation for alumni and subject teachers about effects of physical education class in the university, we found following three major significances. 1) An enhancement of health, safety and fitness, 2) Promotion of sports activity, 3) Character-building as a human being. In addition, we made a proposal to include the principle for a new physical education in the university by overseas researches about sports education.

By surveying about curriculum for physical education from home and abroad universities, we discussed from various perspectives about philosophy and educational goals which must be include in a new curriculum and came into operation the new curriculum since 2011. As results of validation of the new curriculum, students who took the class placed higher value the new one than old one.

交付決定額

(金額単位：円)

|        | 直接経費       | 間接経費      | 合計         |
|--------|------------|-----------|------------|
| 2009年度 | 4,800,000  | 1,440,000 | 6,240,000  |
| 2010年度 | 4,900,000  | 1,470,000 | 6,370,000  |
| 2011年度 | 5,000,000  | 1,500,000 | 6,500,000  |
| 2012年度 | 5,100,000  | 1,530,000 | 6,630,000  |
| 年度     |            |           |            |
| 総計     | 19,800,000 | 5,940,000 | 25,740,000 |

研究分野：身体教育学

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学，身体教育学

キーワード：共通教育，大学体育，カリキュラム，卒業生アンケート，教育目標，授業評価

### 1. 研究開始当初の背景

社会構造の変化に伴って、大学を取り巻く環境は大きく変わりつつある。たとえば18歳人口の減少に伴う大学全入時代の到来。あるいは、行財政システム・スリム化の一環とされる国立大学の独立法人化。これ以外にも様々な要因が加わり、大学間の競争はますます激化している。さらに大学に求められる役割も従来のマスプロ教育を通じた「均質的で基礎学力に優れた人材の大量供給」から、実用的なカリキュラムによる「創造的で即戦力となる人材供給」へと変化しつつある。「知の競争時代」と言われる今日、大学はまさに学生を教育する力（教育力）が問われている。ではその大学教育の中で、教養教育としての体育（大学体育）はどう位置づくべきであろうか？かつて大学設置基準の大綱化の前夜（1991年頃）、「大学体育」に関しても盛んに議論がなされたが、その本質はいかに職域としての「大学体育」を守るかが焦眉的であった。議論の末、多くの大学で「大学体育」は残ることになったが、15年以上の年月を経て、今日の「知の競争時代」にあつて「大学体育」が十分に役割を果たしてきたかは、未だ検証されていない。今後も大学の「教育力」を担うセクションとして「大学体育」が存在し続けるためには、これまでの実績を客観的に評価・総括した上で、現代のニーズに適合した「大学体育」のモデルを再構築し、提示していく必要があると思われる。

### 2. 研究の目的

本プロジェクトは筑波大学体育センターが主体となり、4カ年をかけて次の3つの項目について実践的な研究を行った。

1) 過去における「大学体育」の成果および問題点を総括し、「大学体育」モデルを再構築する際の基礎資料を得る

2) 1) の研究成果や先進事例に関する情報をもとに、現代ニーズに合った「大学体育」の基本理念の再構築に取り組み、カリキュラムの作成を行う

3) 再構築されたモデルに基づく「大学体育」の新カリキュラムを試行的に実践し、その効果について客観的な証拠（エビデンス）による検証を行う。

### 3. 研究の方法

研究目的1を達成するために、筑波大学体育センター元教員ならびに現教員に対してインタビュー調査を実施し、これまでの筑波大学体育センターの教育理念やカリキュラム

の作成過程において重視されてきた点について資料を収集した。また筑波大学に1974年から2006年までに入学し、体育を受講した約18000名の卒業生の中から、入学年度や学部・学科の規模を考慮した系統抽出法により2000名を抽出し、在学時代にどのような体育授業を受講したか、また体育授業を受講したことによってどのような影響を受けたかなどについて、質問紙を郵送し、アンケート調査を実施した。なお有効回答数は520名であった。さらに大学体育が日本に導入された経緯について調査するために、国内外において文献研究と聞き取り調査を実施した。

研究目的2を達成するために、国内外の大学において現在実施されている体育授業のカリキュラムに関する文献研究とフィールド調査を実施し、目的1)の研究成果を踏まえ、新たな「大学体育」の理念と教育目標を策定し、それを実現するためのカリキュラム案を作成した。

研究目的3を達成するために、①教員による成績評価方法の検討、②学生による授業評価と教員による授業自己評価の比較検討、③教員相互による授業評価の実施、④学生による通年授業評価と学生による単元評価の比較検討、⑤潜在的カリキュラム評価の検討、以上5項目について調査検討を行った。

### 4. 研究成果

研究目的ごとの研究成果の概要は以下のとおりである。

<研究目的1>について

教育概念基本構造を用いた大綱化前後の相違点および教育効果（卒業生アンケート）・教育実践（教員アンケート）に関する調査によって、体育センターがこれまでに実施してきた共通科目「体育」の教育活動における効果と問題点が明らかになった。

またわが国における大学体育発祥の理念と背景、意義の変遷の調査からは、これまでの大学体育の発展史とそこでの問題性、今後の課題が明らかになった。また、海外における体育授業の実態及びスポーツ教育の価値に関する調査からは、各国におけるスポーツのあり方や教育システムの違いが体育授業やスポーツ教育のあり方に大きく影響していることが明らかになった。

前述2つの調査によって、今後大学体育が果たすべき役割が明らかになった。一方で、国際的なエリート養成機関（ボーディングスクール）においてスポーツ教育がとりわけ重視されていることに着目した点については、

今後大学体育のあり方を検討するにあたって大いに参考になると考えられる。

<研究目的2>について

1) の研究成果を踏まえて、以下のような新たな大学体育の理念と5つの教育目標を策定した。

筑波大学の体育の理念：「健やかな身体、豊かな心、逞しい精神を育む筑波体育」

筑波大学の体育は高等教育における身体的側面からの人間教育を担っています。最新のスポーツ科学を基に、健康であることの重要性、体力の必要性を理解し、スポーツの技術の習得と技能の向上を目指す多様なスポーツ実践をとおして、「健やかな身体・豊かな心・逞しい精神」の育成を目指しています。

1. 健康・体力およびスポーツ技術に関する基礎的知識や思考力、実践力の養成

最新のスポーツ科学を基にしたスポーツ実践を通して、自己の健康・体力、スポーツ運動に関する基礎的知識・思考力等を獲得せしめると共に、それを実践できる能力を養います。

2. 豊かな心と社会性（コミュニケーション力、リーダーシップ等）の醸成

学類を越えた学生相互の動的ふれあいを通して、良好な人間関係を築くとともに、共有する課題や目標に挑戦する中で、それを達成しえた時の喜びを仲間とともに分かち合える力を養います。

3. 逞しい精神、高い倫理観の育成

新たな目標を目指し、困難な課題や厳しい状況を克服して行く中で、チャレンジ精神や不屈の精神等を鍛えるとともに、自然や人間との直接的・間接的対峙の中で、慈しみや礼節を尊び、相互に尊重し合う等、高潔な人間性、規範意識、倫理観を養います。

4. スポーツ文化の知的解釈力・鑑賞力の涵養

多様なスポーツの実践と観戦を通して、スポーツの持つ文化的・芸術的価値に気づき、より高度な解釈力・より深い鑑賞力を養うとともに、より質の高い実践力を育むことによって、スポーツを生涯にわたって楽しみ、支援して行く力の基礎や態度を醸成します。

5. 自立的に自己を成長させ続ける力の涵養  
運動することを単に体育・スポーツのみの問題として捉えるのではなく、環境や社会的問題との関わりの中で捉えられるよう、多角的・学際的・総合的な視点に立ち、生涯を通じて自己啓発し続けるための基礎を築きます。

<研究目的3>について

学生による授業評価と教員による授業自己評価を比較した結果、総じて学生による評価の方が教員による自己評価より高かった。特に「総合的な満足度」は高く、教員の指導方法と授業計画・運営への高い評価がその背

景にあると推察される。

また複数教員から推薦された教員1名を選定し、教員相互による授業評価を行った結果、他教員の授業改善に資する様々な示唆が得られた。

旧カリキュラムと新カリキュラムを比較した調査結果から、5つの教育目標すべてにおいて新カリキュラムは有意に評価が高かった。しかし「授業の運営・指導法」、「満足感」においては旧カリキュラムの方が評価が高い結果となった。これは、新カリキュラムでは單元ごとに重点化された明確な教育目標の設定がなされ、それが授業評価の観点と一致していたことが反映されたものと推察される。一方で、旧カリキュラムでは1種目を1名の教員が通年で授業展開するため、「授業の運営・指導法」、「満足感」で高い評価が得られたものと思われる。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計14件）

①向後佑香, 坂本昭裕, 大森肇, 秋山央: 筑波大学体育センターにおける基礎体育の評価-新カリキュラムはどのような成果をもたらしたのか-. 大学体育研究, 35, 13-26, 2013(査読有)

②松田裕雄, 吉岡利貢, 河村レイ子, 桐生習作, 金谷麻理子, 武田丈太郎, 門野洋介: 大学体育の価値向上に向けた一考察-教育実践に向ける目標・教授・学習に着目して-. 大学体育学研究, 9, 69-92, 2012(査読有), [社] 大学体育連合、大学体育優秀論文賞受賞

③小田梓, 大森肇, 坂本昭裕, 小俣幸嗣, 平山素子: 新カリキュラムに対応した学生による授業評価作成の試み. 大学体育研究, 33 :93-100, 2011(査読有)

④松田裕雄, 金谷麻理子, 吉岡利貢, 小田梓, 吹田真土, 川村卓, 小山宏之, 白木仁, 橘直隆: 筑波大学体育センターの教育事業におけるカリキュラム概念基本構造の変遷. 大学体育研究. 32. 7-18 .2010(査読有)

〔学会発表〕（計9件）

① Tsuyoshi Matsumoto and Toshitsugu Yoshioka: Current Status of Physical Education at Japanese Colleges and Universities. National Association of Kinesiology and Physical Education in Higher Education, San Diego, (米国) 2012/11/8

② 松元剛: 大学体育における成績評価方法の

標準化に関する研究. 日本スポーツ教育学会  
第32回大会, 豊田, 2012/11/10

③向後佑香, 坂本昭裕: 大学体育が新入生の  
メンタルヘルスに及ぼす影響. 日本スポーツ  
教育学会第32回大会, 豊田, 2012/11/10

④鍋倉賢治, 他: 我が国の「大学体育」の基  
本理念とカリキュラム. 第62回日本体育学  
会, 鹿屋, 2011/09/25

⑤Masamitsu Tomikawa, Mariko Kanaya, et  
al. : Long-term Impacts of Physical  
Education Classes on the Alumni of a  
National University. The International  
Conference for the 30th Anniversary of  
Japanese Society of Sport Education, Tokyo,  
2010/10/9

⑥Mariko Kanaya, Yasuo Matsuda, et al. :  
Characteristics of Physical Education  
Curriculum of Sport and Physical Education  
Center in University of Tsukuba. The  
International Conference for the 30th  
Anniversary of Japanese Society of Sport  
Education, Tokyo, 2010/10/10

⑦Hiroyuki Koyama, Mariko Kanaya, et al. :  
Differences in Effects of Physical  
Education Curriculum in University of  
Tsukuba before and after the Deregulation  
of University Act -Based on the  
Questionnaire Survey of Alumni of  
University of Tsukuba-. The Internati onal  
Conference for the 30th Anniversary of  
Japanese Society of Sport Education, Tokyo,  
2010/10/10

⑧金谷麻理子, 松田裕雄, 他: 筑波大学体育  
センターにおける「大学体育」のカリキュ  
ラムの変遷. 日本体育学会第61回大会, 豊田,  
2010/9/8

⑨小山宏之, 金谷麻理子, 他: 卒業生による  
「大学体育」に対する授業評価-大学にお  
ける教養教育としての体育の教育効果-. 日本  
体育学会第61回大会, 豊田, 2010/9/8

[その他]

ホームページ等

<http://www.sapcc.tsukuba.ac.jp/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

宮下 憲 (MIYASHITA KEN)

筑波大学・名誉教授

研究者番号: 30110480

### (2) 研究分担者

高木英樹 (TAKAGI HIDEKI)

筑波大学・体育系・教授

研究者番号: 80226753

金谷麻理子 (KANAYA MARIKO)

筑波大学・体育系・准教授

研究者番号: 00284927

松田裕雄 (MATSUDA YASUO)

筑波大学・体育系・講師

研究者番号: 50375474

鍋倉賢治 (NABEKURA YOSHIHARU)

筑波大学・体育系・教授

研究者番号: 60237584

大森 肇 (OMORI HAJIME)

筑波大学・体育系・教授

研究者番号: 20223969

坂本昭裕 (SAKAMOTO AKIHIRO)

筑波大学・体育系・教授

研究者番号: 10251076

松元剛 (MATSUMOTO TSUYOSHI)

筑波大学・体育系・准教授

研究者番号: 90209643

谷川 聡 (TANIGAWA SATORU)

筑波大学・体育系・准教授

研究者番号: 60400660

### (3) 連携研究者

小俣幸嗣 (KOMATA KOJI)

筑波大学・体育系・教授

研究者番号: 80138362

白木仁 (SHIRAKI HITOSHI)

筑波大学・体育系・教授

研究者番号: 90206285

山田幸雄 (YAMADA YUKIO)

筑波大学・体育系・教授

研究者番号: 10182560

遠藤卓郎 (ENDO TAKURO)

筑波大学・体育系・教授

研究者番号: 20134249

大高敏弘 (OTAKA TOSHIHIRO)

筑波大学・体育系・教授

研究者番号：90194183

本間三和子

筑波大学・体育系・教授

研究者番号：80241800

榎本靖士 (ENOMOTO YASUSHI)

筑波大学・体育系・准教授

研究者番号：90379058

嵯峨 寿 (SAGA HITOSHI)

筑波大学・体育系・准教授

研究者番号：30261788

鍋山隆弘 (NABAYAMA TAKAHIRO)

筑波大学・体育系・准教授

研究者番号：40334057

平山素子 (HIRAYAMA MOTOKO)

筑波大学・体育系・准教授

研究者番号：80344878

安藤真太郎 (ANDO SHINTARO)

筑波大学・体育系・講師

研究者番号：70202786

吹田真士 (SUITA MASASHI)

筑波大学・体育系・助教

研究者番号：60361325

福田 崇 (FUKUDA TAKASHI)

筑波大学・体育系・助教

研究者番号：30375472

山田永子 (YAMADA EIKO)

筑波大学・体育系・助教

研究者番号：80611110

向後佑香 (KOGO YUKA)

筑波大学・体育系・特任助教

研究者番号：70642669